



## 地域資源とは何か

東京大学教授 にしむらゆきお 西村幸夫

まず地域資源としてだれもが納得するのが文化財に指定されているような地域の宝、文化遺産でしょう。文化財も指定制度だけでなく、登録制度も生まれましたし、さらには景観条例のような別制度によって景観重要建造物などとして外観だけでも守りたい、というような資源もあります。また、地域の伝統行事やその際の食など、これまであまり注目されてこなかったような文化遺産もあります。

古い伝統だけでなく、新しくつくられたアートやモニュメント、それにまつわるイベントなどもわかりやすい地域資源と言えるでしょう。

目を外に向けると山や川、海岸線など豊富な自然が身近にあるのも私たちの地域の特色だと言えるでしょう。それも時間と共に変化するものなので、春の新芽や盛夏の濃い緑、秋の紅葉、そして冬の雪景色など、どれも立派な地域資源です。

もっと日常的な資源もあります。鉄道や地下鉄などの交通インフラなども立派な地域資源です。たとえば日本は鉄道車両のバラエティが多い世界有数の国だとして知られていますので、鉄道車両も見る人によっては地域資源です。方言だって立派な地域資源です。

ある時、台湾から来た友人のお子さんに東京の初印象はと尋ねたところ、空が青いことという答えが返ってきました。公害を克服した日本の青い空も海外からの来訪者にとっては地域資源なのです。

つまり、地域資源とは地域に住む自分たちが共有する地域の価値観であるだけでなく、地域とは異なった生活環境のひとが感じる価値観も含んでいるのです。前者は合意するのは簡単ですが、後者は意外に気づきにくいものです。

「地域資源と気づく目を持って見たものが地域資源になるのです。」—— そんな目を持つためには、ある種のトレーニングが必要です。自分のまちを旅するような目で見ると、という修練です。自分の住むまちの魅力をもっと多く発見できるような柔軟な目を育てること、そうした機会が用意できていることやそれができる人材がいることこそ、最大の地域資源なのかもしれません。